

## 1. 試験の概要

今回の試験の主旨は、部屋干し時における臭気を当該商品を使用した場合とそうでない場合での比較検証ですので、シチュエーションからも人の官能基に訴える臭覚測定法で実施致しました。最近の臭気測定の動向は世界的にも、臭覚測定法が一般的な動きとなっています。臭覚測定法は国家資格であり、その有効性を別添『におい・かおり環境協会の、・においの測定を依頼したい』の項目でご参照いただけます。今回の試験に伴い、同協会が認定した事業所で滋賀県内であることから、近江オドエアーサービス㈱に相談も含め、試験の実施を依頼しました。

社団法人におい・かおり環境協会のホームページは、<http://www.orea.or.jp/>

近江オドエアーサービス㈱のホームページは、<http://www.shoshu.com/top.html>

## 2. 試験方法

近江オドエアーサービス㈱に前述した目的を説明すると共に、それを達成するための方法を次の通り指導を受け、実施した。

### 1) 原臭の用意

2010年8月8日、試験対象となる原臭をバスタオルを用いて用意した。

- ・使用タオル → 新品のタオルを1枚用意。1200×600mm。通称『浴用タオル』  
(以降、原臭扱い) 材質は綿100%の市販品。
- ・使用者 → 滋賀県蒲生郡在住、70歳男性。
- ・使用方法 → 2010年8月8日20時頃、日常的な入浴方の後、当該タオルを用いて全身を拭く。ボディソープやシャンプーなどは、使用者が日常的に使用している物で対応。
- ・保管方法 → 原臭確保のため当該タオルを使用後、間を空けずに市販のラップで全体を隙間無く包み、常温で翌日（8月9日）まで保管。

### 2) 臭気の測定

#### ○原臭の測定

2010年8月9日10時頃、原臭を近江オドエアーサービス㈱に持ち込み、有資格者である臭気判定士（以下パネル）6名で測定を実施した。



2010年8月9日11時30分頃、原臭を預かる。

#### ○比較検証物の用意

2010年8月9日12時30分頃、使用者宅で原臭タオルをハサミで二等分（600×600mm）し、一つは通常通り洗濯洗剤で単体洗濯し、一つは通常通り洗濯洗剤で単体洗濯の後、濯ぎ時に部屋干しバイオくん2ccを添加した。

洗濯機は2槽式で、1回当たり50ℓの水道水を使用した。

洗濯洗剤は共に、花王アタック（粉末）を使用（1回当たり計量カップ1/3）した。

※洗剤以外の柔軟剤などは使用していません

洗濯の順番は、部屋干しバイオくん添加処理を施した物を最後にした。

それぞれのタオルを洗濯後、間を空けずに市販のラップで全体を隙間無く包み、常温保管。同時に、それぞれのタオルをラップで包んだ状態で、部屋干しバイオくん添加の有無が判断できる表記をそれぞれに施した。



2010年8月9日14時頃、上記タオル2種類を近江オドエアーサービス㈱に持ち込む。

#### ○部屋干しの措置と試験

近江オドエアーサービス㈱嗅覚試験室内にて、二つのタオルをそれぞれ別々に常温で部屋干し。この際、同室内においてエアコンなどの措置は一切していない。

部屋干しの期間は2010年8月9日16時頃～8月10日10時頃まで。

この後、臭覚試験（臭気強度、快・不快度）をパネル6名にて実施。

※当日の気温などは、次に示す気象庁のURLよりご確認いただけます。

[http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/view/daily\\_a1.php?prec\\_no=60&prec\\_ch=%8E%A0%89%EA%8C%A7&block\\_no=0963&block\\_ch=%93%8C%8B%D F%8D%5D&year=2010&month=8&day=9&elm=daily&view=](http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/view/daily_a1.php?prec_no=60&prec_ch=%8E%A0%89%EA%8C%A7&block_no=0963&block_ch=%93%8C%8B%D F%8D%5D&year=2010&month=8&day=9&elm=daily&view=)

## 3. 試験結果

### ○近江オドエアーサービス㈱からのレポート

パネル6名での臭覚測定による結果

- ①測定結果報告書
  - ②測定の流れ
  - ③バスタオル 臭気強度試験結果－1
  - ④測定結果一覧表
- 以上、4部（4枚）構成。

○ 試験の考察

近江オドエアサービス(株)は冒頭説明させて頂いた通り第三者機関ですので、主観的な報告はありませんが、今回のレポートを基にした弊社としての考察は次の通りです。

■①のレポートを基に

		臭気強度		快・不快度	
		原臭との差	対象同士の差	原臭との差	
原 臭		2.75		-1.33	
対 象	部屋干し有	0.67	2.08	0.08	1.41
	部屋干し無	1.25	1.50	-0.33	1.00

原臭との差においては臭気強度、快・不快度共に部屋干し有の方が無の方に比べ数値が大きいため、部屋干しバイオくんを添加した事による効果は存在すると考えます。また、第三者機関であるが故に主観的な表現は無いと記しましたが、近江オドエアサービス(株)からは、臭気強度における対象同士の差が0.5以上あれば、効果の可能性も考えられると、口頭ですが説明をいただきました。併せて補足になりますが、同じく対象同士の差が1.0程度になる事は稀な現象との説明もいただきました。

■④のレポートでは、

項目 パネ		6 段 階 臭 気 強 度					
		A	B	C	D	E	F
原 臭		3.5	2	3	3	3	2
対 象	部屋干し有	1	0	0	1	1	1
	部屋干し無	1	1	1.5	1.5	1.5	1

日常的に何らかの生活臭が存在する中で、無臭状態である臭気強度ゼロというシチュエーションは困難であるという前提において、臭気強度測定における6名のパネル中2名(B、C)ものパネルが臭気強度ゼロ(無臭)と判断したのは珍しい事案であると、同社から説明をいただきました。

以上2つの項目が示す客観的な数値から部屋干しというシチュエーションにおいては、市販の洗濯洗剤のみの使用より、部屋干しバイオくんを添加した方が人の官能基に対してはより快適な環境と認識していただけたと考えます。

以 上